
■ 実習集

実習「グループ エントランス」

大塚 弥生

(南山大学総合政策学部総合政策学科)

ねらい

- ・体験学習の学び方を知る。
 - ・自己紹介を通してグループのメンバーと出会い、グループをスタートさせる。
 - ・自分やメンバーのコミュニケーションに目を向ける。
-

グループサイズ

1 グループ 5名～7名。グループ数はいくつでも可能。

所要時間

90分

準備物

1. 手順書(資料1)
2. 自己紹介カード(各自に2・3枚)
白紙のカード(紙片)を必要枚数準備する。
大きさは自由であるが、縦6センチ・横9センチ程度の厚紙が扱いやすい。
3. ふりかえり用紙(資料2)

会場の設定

個人作業をした後、グループのメンバーが、机をはさんで向かい合える状態になれるように設定する。移動可能な椅子と机を使用して、個人作業の後で椅子と机を移動させてグループの形を作るか、前列に座ったメンバーが後ろを振

り向く形になってもよい。

手順

1. 導入 資料1を使用し、ねらいと実習の手順を説明する。 <10分>
各自に白紙のカードを2・3枚ずつ配布する。
2. 個人で、自己紹介カードを作成する（資料1の2）。 <10分>
3. 実施 <30分>
グループになり、カードに従って自己紹介を行う（資料1の3）。
 - ①メンバー全員のカードを集め、裏向きにして、トランプを切る要領で全体を混ぜる。
 - ②一枚ずつカードをめくり、そこに書かれている内容について、カードを書いた本人から順に、メンバーで伝え合う（自己紹介していく）。
 - ③指定された時間が終わるまで、カードを順にめくり、自己紹介を行っていく。
4. ふりかえり用紙記入 <10分>
5. わかちあい <10～15分>
6. 全体でのわかちあい <5～10分>

ファシリテーションのポイント

研修の参加者にとって、どのようなメンバーがどのような目的を持って集まってきたており、どのようなメンバーとグループ活動を行うことになるかということは、気になることである。そのため、グループをスタートさせる時、通常は名前や所属などの簡単な自己紹介を行うであろう。あらかじめ体験学習に何らかの期待を持って来ている参加者にとっては、見知らぬ人と出会うことの緊張感もまた楽しいものである。しかし一方で、授業の単位を取得することが目的で参加している学生や、仕事上の要因で参加させられている参加者の中には、体験学習やグループ活動を行うことに対する動機づけが低かったり、時には人と関わることに不安や恐れを抱いていたりすることがある。この実習は、グループのメンバーが初対面であり、参加者がグループ活動に対して過度な不安や緊張を抱いている場合などに、お互いが知り合うことで安心してグループ活動に参加し、体験学習をスタートさせるために作成したものである。そのため、ファシリテーターは場の緊張を和らげ、リラックスした雰囲気の中でグループ活動を開始できるように努める。日常生活での自己紹介とは異なる形での自己紹介を行うことを通して、メンバーと知り合い、メンバー間の緊張を緩和させるとともに、体験学習の進め方についての理解を深めることをねらいとしている。

カードを使って自己紹介を行う際には、「時間内にカードを終わらせる」ことが目的ではなく、「カードを使ってお互いが出会う」ことに取り組むというねらいを十分に伝える。そのため、「時間内にすべてのカードについて自己紹

介する必要はない」ことや、「自己紹介を行っているときの、自分や他者の気持ちや行動に目を向けていくこと」に取り組むように伝えておく。また、ふりかえり用紙を記入する際やわかちあいを行う際にも、ラボラトリー方式の体験学習のサイクルを意識しながら、そのねらいを伝えていく。

最後の全体でのわかちあいでは、参加者の体験を聞きながら、ファシリテーターがコメントを行う。ここでは、コミュニケーションの要素や体験学習に関わるさまざまな感想が出されることが予想され、ファシリテーターは参加者の具体的な言動（データ）を明確にするようにたずねながらコメントしていく。たとえば、「難しかった」や「楽しかった・盛り上がった」という感想に対して、まずそれをそのまま受け止めると同時に、「どんなところがどんな風にそう感じたのか」という点を明らかにしていく。そのことを通して、実習の前・実習中・わかちあいの時点それぞれに、各自の内面にはさまざまな思いや考えが起こっていること、それはメンバーの言動から影響を受けていること、自分の言動もまた他者に影響を与えていることについてコメントする。参加者の体験が「自己概念」・「明確な表現」・「傾聴」・「自己開示」・「感情の取り扱い」などのコミュニケーションの要素と関わっていることを伝えるのも有効であろう。同時に、ふりかえりやわかちあいを行うことによって気付きや学びにつながっていくことを示し、ここでの学び方について説明していく。

時間があれば、最後に自分自身のねらいを明確にし、この後に続く体験学習の場において、一人ひとりが自分自身のねらいを持って参加していけるようにする。ここで作成した個人のねらいは、次回の実習のはじめにメンバーと共有し、お互いの学びを助け合うグループをスタートさせることも期待される。

資料1

実習 “グループ エントランス” 手順書

ねらい：

- ・ グループのメンバーと出会うために、楽しく自己紹介をする。
- ・ 自分やメンバーの、話し方や聞き方に目を向ける。
- ・ 体験学習の学び方を知る。

手順：

1. 導入 ねらい、手順の説明
2. 個人で、一人当たり、2・3枚の自己紹介カードを作る。
 - ・ 「こんなことを伝え合ったら、お互いに知り合うことができる」と思われる項目（自己紹介の内容）を考え、カード一枚につき、一項目を記入する。
（例：行ってみたい外国は？ わたしが一番リラックスできる時 など）
 - ・ カードには、伝え合う項目の他に、そのカードを作った人の名前も記入する。
 - ・ カードを作り終えたら、メンバー全員のカードを集め、裏向きにして、トランプを切る要領で全体を混ぜる。
3. 実施
 - ・ 一枚ずつカードをめくり、そこに書かれてある項目の内容について、メンバー全員が順に伝え合う。このとき、引かれたカードを書いた本人から自己紹介をはじめめる。
 - ・ 指定された時間が終わるまで、カードに従って自己紹介をしあう。
 - ・ 時間内にすべてのカードを使っての自己紹介が終わっても、時間がくるまではグループで自己紹介をして過ごす。
4. ふりかえり
 - ・ 実施後、ふりかえり用紙に気付いたこと、感じたことを記入する。
5. わかちあい
 - ・ グループで、ふりかえり用紙に記入したことをわかちあう。
6. 全体でのわかちあい
 - ・ 全体で、実習の体験をわかちあう。

出典：大塚弥生（2008） 実習「グループ エントランス」
南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」第7号より

実習使用規定

ラボラトリー方式の体験学習に関するツールを公開することで、ラボラトリー方式の体験学習が広く普及することを願って、第7号(2008)より「実習」を掲載しております。ここに掲載されている実習は、当センター研究員とその仲間によって開発され、これまでの教育実践で用いられてきたものです。使用の際には以下の留意事項をお守りください。

なお、ラボラトリー方式の体験学習を実施する際には、まずはご自身がラボラトリー方式の体験学習を体験されることをお勧めします。当センターではラボラトリー方式の体験学習を用いた公開講座を開催しております（詳しくは当センターの Web ページ <http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/> をご参照ください）。体験学習のファシリテーションを学んだ上でご使用ください。

実習を使用する際の留意事項

1. 著作権は著者に属します。実習を販売することや、営利目的の発行物などに転載をすることは禁止します。なお、教育目的での無料の発行物などに転載を希望される場合は、当センター事務局にお問い合わせください。
2. ラボラトリー方式の体験学習として教育・研修などに使用される場合には、各実習の課題シート（実習の指示書）に出典を明記してください。使用の際に当センターや著者に許可を得る必要はありません。また、使用料も発生しません。

【出典の記入例】

出典：大塚弥生（2008）「グループ エントランス」

南山大学人間関係研究センター 人間関係研究, 第 7 号より

3. 課題シート（実習の指示書）をそのまま使用するのではなく、プログラムの実施状況に合わせて適宜修正・変更した上で使用する場合は、「参考」として出典を明記してください。
4. ラボラトリー方式の体験学習で大切にされている教育観（学習者中心の教育、非操作の教育、学習者が自らの人間的成長に取り組む教育）に反する使用は禁止します。たとえば、営利目的で学習者を操作する自己啓発セミナーなどでの使用は一切禁じます。